

理科・環境教育助成 成果報告書

第2回 期間：2004年11月～2005年11月

氏名：横田 宗一郎 所属：神奈川県教育委員会教育局教育政策課

課題名：サイエンスものづくりフェスティバル

1. 課題の趣旨

子ども達の理科離れや理科嫌いが指摘されるようになって久しい。また、国際調査などによれば、子ども達の科学と日常生活との関わりについての認識は極めて希薄になってきており、大変に憂慮すべき事態である。

このような状況を乗り越えていくためには、子ども達が体験と学習の間を幾度も往復し、実感の伴った学びを成立させる必要があると考えた。

そこで、小学校の学習指導要領にも示されているように、科学的な「ものづくり」体験を通して、科学への興味や関心を高めていきたいと考えた。

具体的な手だてとしては、地区の理科教師との連携を図り、それぞれが「ものづくり」の講師となり、学校だけでなく公民館など社会教育施設での体験学習講座を開催する。

こうした学校のカリキュラム外での科学体験と、学校での理科や環境教育とが、子どもの内面で響き合い、学びの広がりや深まりを生み出す契機としたい。

2. 活動の状況

○平成16年11月 研究助成の決定

○平成16年12月～平成17年5月（月1～2回の会議を継続的に開催）

- ・他の先行事例についての資料収集
- ・地区の理科教師との連携による教材研究
- ・近隣市町村の社会教育行政部門などとの調整

○平成17年6月～平成17年9月（月1～3回の会議を継続的に開催）

- ・フェスティバルにおいて具体的に提示する課題の決定と資料収集
- ・各「ものづくり」課題の教材づくりと指導内容の検討
- ・会場となる公民館及び小学校との打ち合わせ
- ・広報誌への掲載及び開催会場近隣の小中学校へのチラシ配布による広報活動
- ・当日の資料作成とりハーサルの実施

○平成17年9月24日 「サイエンスものづくりフェスティバル in あいかわ」開催

- ・中津公民館との協働により、愛川町立中津公民館を会場に開催
- ・午前・午後の2部構成で実施
- ・公民館にて参加者希望者の申し込みを集約—参加者は、5つの小学校から22名
- ・各部とも6つの講座を設定し、参加者は1時間ずつ2講座を体験

○平成17年10月 （2回の会議を開催）

- ・9月24日のフェスティバルの反省とまとめ
- ・11月5日開催のフェスティバル in つま小への準備

○平成17年11月5日「サイエンスものづくりフェスティバル in つま小」開催

- ・妻田小学校PTAふれあい係サタデークラブとの協働により、厚木市立妻田小学校を会場に開催
- ・午前日程で、小学校PTAの方々のアシスタント（32名）を得て実施
- ・児童185名、保護者25名が参加。

○平成17年11月（2回の会議を開催）

- ・報告書の作成

3. 結果

今回の取組の結果として、次の3点を挙げるができる。

- ① 新たな学びの場と出会うことにより、自発的で主体的に学ぶことの楽しさや、夢中になって取り組む中に納得や新たな疑問が生まれてくること、そして、理科や科学が教室の中だけのものではないと気づくことなど、子ども達の学びに向かう「構え」の転換を触発した。
- ② 地域や社会教育施設との協働により、自由な発想の下の企画立案が可能となったとともに、活動を通じて連帯感と相互信頼の醸成や、学びの場としての地域の魅力アップの一助を果たした。
- ③ 共に悩み、共に学び合うことにより、個人としての教師力の向上を図ることや、仲間としての強い絆づくりを進めること、そして、これからの教師の在り方を考えることの契機となった。

4. 今後の課題と発展

今回の取組については、次年度以降の継続や拡充を望む声が高く、そのことに対して、どのように応えていくのかは、今後の大きな課題である。

また、今回のような単発のイベントではなく、小規模ではあってもテーマを掲げ、地域素材を生かした連続講座のような形態での開催の可能性も探っていきたい。